

オペラとバレエ あふれるロマン

第59回大阪国際フェスティバル2021（朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホールなど主催）で6月と9月、二つの注目の作品が上演される。ロッシェニのオペラ「泥棒かささぎ」は、関西初の全曲上演。新国立劇場バレエ団の「竜宮 りゅうぐう」は、満を持しての関西初上演となる。（李田光、富岡万葉）

踊るフグやイカ3兄弟 愉快な海物語

新国立劇場バレエ団の話題の新作「竜宮 りゅうぐう」がこの秋、大阪にお目見えする。おとぎ草紙の「浦島太郎」をモチーフに、愉快な海の生き物たちが舞い踊る。

「こどものためのバレエ劇場」シリーズの一つ。国内外で活躍するコンテンポラリーダンスの振付家、森山開次が手がけた初のバレエ作品だ。「僕らが想像もしなかった、普段バレエではやらないような独特の振り付けも多い」と主演でプリンシパルの奥村康祐は話す。浦島太郎が助けた亀は、竜宮城のお姫様だった。海のうたげに誘われ、姫の美しい舞に魅了されて恋に落ちる。おちやめなフグに、タンゴを踊るイカの3兄弟。個性豊かな

子ども向け「竜宮」関西初上演

ダンサーとの掛け合いも楽しい。プロジェクトチームのメンバーに、四半の移ろいや恋模様を約2時間で美しく描く。冒頭、よくよく耳を澄ませると、「よむかしむかし浦島は」の変奏が流れてくる。「子ども頃からよく知る童謡に合わせ踊るのもおもしろかった。西洋のバレエと日本の文化をくっつけるのは難しいですが、バレエを日本に根付かせるためには大事なこと」と意気込む。稽古が始まったのは、コロナ禍の忍び寄る20年の年明け。バレエ団は約5カ月の休演に見舞われ、7月によく新国立劇場で初演された。大阪出身の奥村は「地元で恩返しができるよう、パワーを与えたい。大変な

ときですが、すごく楽しい作品なので明るい気持ちになってもえたら」と語った。亀の姫を演じるファースト・ソリストの池田理沙子は、羽衣をはためかせるソロがお気に入りで、「日本舞踊を取り入れて見ます。坂東玉三郎さんの映像を見て研究しました」。2人は5年前から、たびたび主演コンビを務める。互いのダンスの魅力を聞くと、「優しさ」と口をそろえた。「まろやかさ、優しい感じが自然とじみ出ている」と奥村はいう。気づけば写真撮影中もポーズがシシロ。絶大な信頼を寄せられていると空気がわかります。池田。息もぴったりな2人が、その優しさで観客を包み込む。

「衣装も映像も遊び心たっぷり」

吉田都・新国立劇場舞踊芸術監督

新国立劇場では、若い世代に生の舞台の素晴らしさを伝えるための普及活動を行っています。その一環として、舞踊部門では、2009年より毎年「こどものためのバレエ劇場」を上演しています。小さなお子様にも身近な童話などを題材に、わかりやすいよう工夫を凝らしてバレエの楽しさと感動を伝えていきます。上演時間を短く設定。見どころを凝縮しておりますので、観劇デビューにもぴったりな機会となっております。2020年に新作制作した「竜宮 りゅうぐう」は、コンテンポラリー・ダンサー、振付家として国内外で活躍されている森山開次さんが初めて

大変な状況下ではありますが、お子様にとって「本物」の舞台を見る経験は、かけがえない思い出となるはず。ぜひ関西の方々にも、このロマンあふれる舞台を味わっていただけたらと思います。

お楽しみいただけるのではないのでしょうか。

芸能の要素ももりもりはめられており、見どころ満載！ お子様はもちろん、大人のバレエ・ファンの方にもお楽しみいただけるのではないのでしょうか。



©Yoshida Tamaki



池田理沙子（左）と奥村康祐 | 岡田晃彦撮影



「浦島太郎」をモチーフにした新作バレエ「竜宮 りゅうぐう」。森山開次が手がけた振り付けや、華やかな衣装にも注目。浦島太郎（奥村康祐、左）は亀の姫（池田理沙子）に心ひかれていく。いずれも鹿摩隆司氏撮影



森山開次 | 石塚定人氏撮影

「泥棒かささぎ」(演奏会形式) 6月5日

関西初上演となる今作の魅力、作品に携わる4人に聞いた



通常より長い稽古で、歌手の皆さんとイメージを共有し、「ベルカント・オペラ」とは何かを追求しています。声の持つ表情でドラマを作ることが目標。イタリアで師事した(指揮者の)アルベルト・ゼッダ先生の影響も大きいですね。今作には心の震えが拡大される劇的な音楽があります。ロッシェニの魅力にご注目ください

園田隆一郎(指揮)

2015年の大阪国際フェスティバルでゼッダ先生と共演し、「ベルカント」で大切なのは感情を声で表現することだと教わりました。今回のニネット役では、華やかなパッセージをそのまま歌うのではなく、一本筋を通すように表現する場面も。人とのつながりも描かれ、最後は温かさを感じていただけははずです

老田裕子(ソプラノ)



今回演じるジャンネットは、出番はそう長くはないものの、恋人ニネットの気持ちを代弁したり、状況を深刻にしてみたりする。物語を動かす上で重要な人物です。華やかな歌の旋律だけではなく、役柄の裏側にある人間的な弱さや心の機微を、ロッシェニは細かく描いています。ドラマチックさを味わってください

小堀勇介(テノール)

演出には、音楽の素晴らしさを届けるという大前提があります。今回はハッピーエンドに至るまでのドラマに注目してほしい。農場主の家を仕切るルチアと悪代官という2人の「権力者」が成長する姿を印象づけるため、台で高低差を演出します。台組は距離がとれるので感染対策にも。鳥の演出にも、ご期待ください

奥村啓吾(ステージング)

グラフィック キーン・ミッシェル・アンマリ

6月5日(土)午後2時

■ロッシェニ作曲・オペラ「泥棒かささぎ」(演奏会形式)
指揮:園田隆一郎、ステージング:奥村啓吾、出演:晴雅彦、福原寿美枝、小堀勇介、老田裕子、青山貴、伊藤貴之、森季子、清原邦仁、西尾岳史、片桐直樹、合唱:関西在住のソリスト陣による特別編成の合唱団、管弦楽:大阪交響楽団
▽S席8500円、A席7500円、B席6500円、BOX席1万2500円、学生席3500円ほか
▽協賛:朝日放送グループホールディングス、関電工、ダイキン工業、大和ハウス工業、高砂熱学工業、竹中工務店、西原衛生工業所

9月23日(木・祝)午後2時

■新国立劇場・こどものためのバレエ劇場「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季の庭～
芸術監督:吉田都、演出・振り付け・美術・衣装:森山開次、出演:池田理沙子、奥村康祐ほか
▽こども(4歳～小学6年生)4300円、おとな(中学生以上)5300円、プレミアムシート(BOX席)7500円。6月19日(土)一般発売
▽協賛:朝日放送グループホールディングス、竹中工務店

◇チケットはいずれもフェスティバルホール(06・6231・2221、<https://www.festivalhall.jp>)ほか主要プレイガイドで発売
◆新型コロナウイルスの感染状況によっては、出演者・曲目の変更や公演延期・中止の可能性がります。